救援の手を待っている！

"生きる道"奪われて

ぼう然自失の被災者

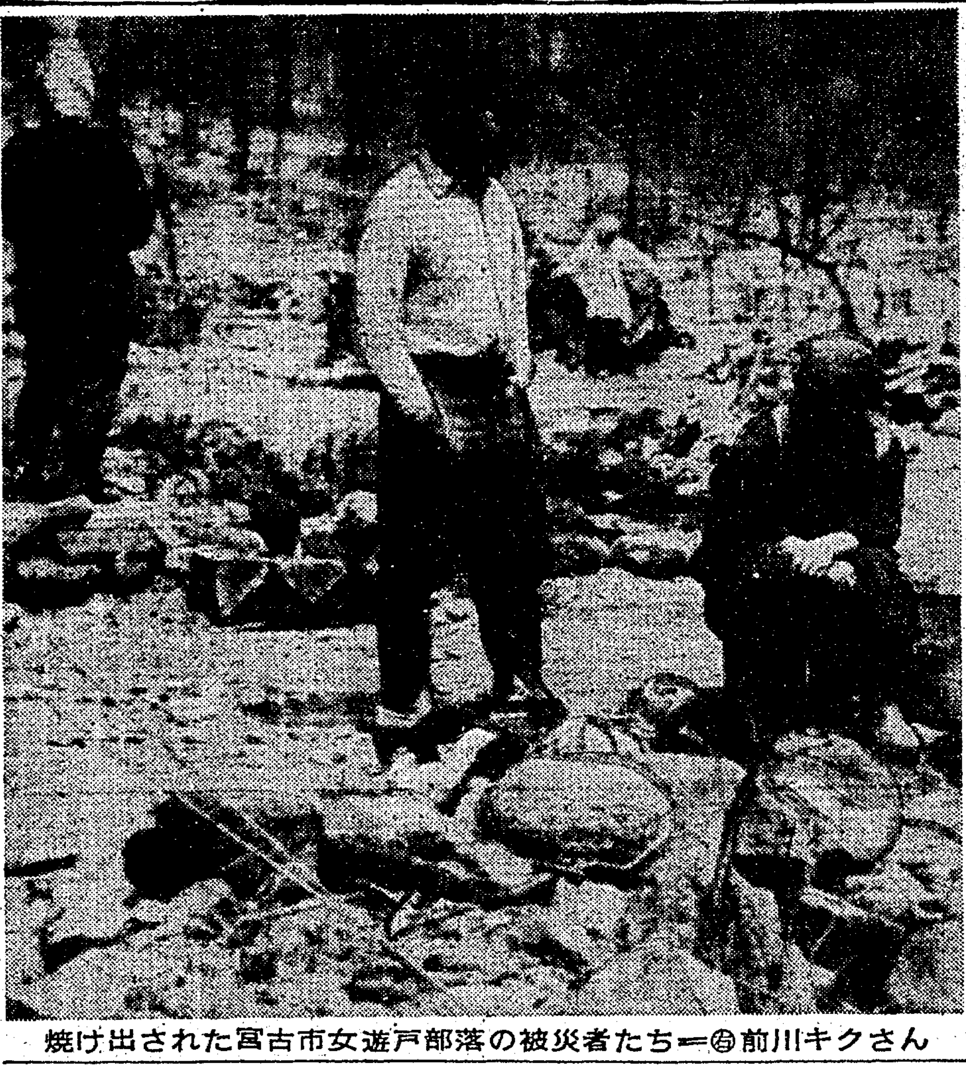
宮古、下閉伊、久慈一帯に猛威をふるった山火事は、強風が吹きやんだのと地元消防団や陸上自衛隊の懸命な消火作業でほぼ鎮まった。山は各所でまだくすぶり続けているが、被害の大きかった下閉伊郡田老町、普代村、岩泉町、宮古市の各市町村は三十日に臨時町議会を開いて被災者への見舞い金、応急仮設住宅の建設を決めるなど積極的な対策を講じ被災民から感謝されている。しかし被災民の多くは着のみ着のまま、貧しい農山漁村の人たちが多く、田老町畑部落の三十人のように二十九日から野宿しているところもあり、応急仮設住宅など県の早急な対策が待たれている。

汗の結晶も一瞬で

宮古　半農半漁の女遊戸

【松橋宮古支局長、浜、藤原特派員発】山火事の延焼で部落内三十二世帯が全焼した宮古市女遊戸は全戸が半農半漁でつつましい生活だった。住民は宮古市役所の命令で着のみ着のままで旧宮古市内の市消防団本部や親類などに避難したため、各世帯とも全財産を消失して途方にくれている。猛火に焼き尽くされた女遊戸は、焼け残った屋根のトタンが、背後の高さ百㍍近い山に吹き上げられて散乱、黒こげになった樹木の間に残ガイをさらしている。

同部落の前川安兵衛さん(七〇)は消火作業の煙や土ぼこりで両眼が見えなくなり、県立宮古病院で治療しているが、焼け跡では妻キクさん(六三)が家族六人を抱えてこれからの生活が心配だと放心状態におちいっている。前川さん一家も半農半漁だが、二十九年にバラックの住宅を建築して年次計画で物置きや住宅の増築工事を進め、カワラをあげ壁を塗るなど、ことしまで七年がかりで完工した矢先に二一〇平方㍍の住宅と一六・五平方㍍の小屋をはじめ全財産を灰にした。キクさんは「逃げることだけで、とても家財運びはおぼつかなかった。それでもやはりあきらめ切れません」と涙をこらえる姿勢で語っていた。



焼け出された宮古市女遊戸部落の被災者たち＝㊨前川キクさん

体の不自由な二老女が焼死

宮古、下閉伊沿岸の山火事でからだの不自由な老婆ふたりが焼け死に、同情をよんでいる。

▽宮古市崎山字松月無職山崎ヨシさん(八〇)は、二十九日午後九時半ごろ避難しようとしたが、からだが不自由で逃げおくれ、自宅前の畑で煙にまかれて窒息死した。

▽下閉伊郡田老町字摂待内無職畠山トヨさん(九〇)は、二十九日午後九時ごろ自宅八畳間から戸外に逃げようとしたが、目が見えない上に中風のため自由がきかず焼け死んだ。

焼死一、火傷五

普代でなお炎焼

【普代にて渡辺久慈支局長】下閉伊郡普代村の山火事はなお燃え続け、三十日午後五時現在、普代村役場前の山林に延焼しているが、風もおさまったので村の中心地へ延焼する心配はない。行くえ不明になっていた黒崎部落の製炭夫天下道長明さん(五七)は、煙にまかれ、足や胸に全治一ヵ月のヤケドをおったが救出され、同村堀内農業宮本留治さん(六七)は煙にまかれて焼け死んだ。また黒崎部落では四人が軽いヤケドを負い治療している。

延焼の危険去る

二十九日下閉伊郡新里村蟇目の二又地内山林から出火し、宮古市内に延焼して猛威をふるった山火事は、宮古市消防団員と応援にかけつけた陸上自衛隊員が三十日夜明けとともに火災現場へ急行、防火帯を設けたり立木を切り倒して延焼を防ぎ、同夕刻までには山がけわしく消火作業の困難な刈屋川、箱石方面を残してほぼ鎮火した。

普代村の合堀り、岩泉町の石峠、[illegible]沢、乙茂、長入、新里村の和井内、宇[illegible]、釜津田方面はまだ燃え続けているが、風もやみ住民や消防団の消火活動で住家への延焼の危険はなくなった。

田老はたき火

県警が原因調査へ

県警本部捜査課は山林火災の原因調査のため三十日、岩泉、田老、宮古の各地区に捜査班を送り調べているが、宮古市二又地区は炭ガマの飛び火、田老地区はたき火の不始末からとみられている。しかし一度に二十余戸も焼いた山火事であり、なかには二十六日ごろから燃え続けていたところもあるほか、岩泉地区は地理的悪条件も重なって確認まではかなりの時間が必要とみられる。

放火の疑いも

八戸署で調査

【青森発】二十九日夜の八戸市の大火について八戸署は三十日早朝から出火の原因の調査をはじめたが、同署の調べでは、出火場所は同市白銀町の清水水産加工場、清水留吉さん方物置き小屋付近であることがほぼ確実となったが、原因はまだ不明という。しかしこのあたりはふだん火の気は全くないうえ二十九日夜は全市が停電したので漏電も考えられないという。

この地区はこれまでも数回放火があり、警察側はかねて要注意地区として警戒していた。とくに清水さん方の二、三軒隣には以前放火されたことがあり、その犯人もまだわかっていない。このため同署では、こんどの大火も放火の疑いがあるとしてこの線の捜査もしている。

結膜炎治療に八個班

県災害対策本部は、被災者のほとんどが軽い結膜炎をおこしているため日赤救護班県立病院三個班、保健所二個班、医師会一個班、日赤二個班と地元の保健所、医師会の協力を求め合計八個班を編成、被災者の洗眼を行なっている。また伝染病の発生を恐れ被災地の避難先を消毒しているほか、保菌者の発見につとめている。

"炭焼く事さえできぬ"

岩泉　路頭に迷う製炭者

【岩泉町にて高泉特派員】田老鉱山住宅をひとなめにしてなお延び続けてきた火は、おりからの風速三五㍍の強風にあおられて岩泉町東側の乙茂部落からはいりこみこれに十一ヵ所から発火した炭ガマの飛び火が加わって上乙茂から三田市部落に延焼、ここからさらに火は仁古部（としろべ）と猿山両部落にわかれ、さらに袰野から赤鹿、日向、中野、外川目、小成と峰伝いに燃え広がり、たちまち岩泉町山林五、〇〇〇㌶と八十一戸、四百五十一人の人家をひとなめにした。

三十日朝になってやっと火勢は衰えたが、全山活火山を思わせるような無気味な火炎が立ち続け、町全体は物の焦げるにおいでおおわれた。切りたつ石山は火熱のためいたるところで崩壊、山伝いの道路には大小の石がゴロゴロところがり、強風に吹き飛ばされた松ぼっくりまでが路上でくすぶっていた。

三方から火に包まれた幾つかの民家は、物すごい火勢に家財を出す余裕などなく、ほとんどがフトンを出しただけで、中でも小本の卒郡部落七世帯、袰野部落十一世帯はあっという間に焼け、中里部落も五十四戸のうちかろうじて中里小と十五戸を残しただけで焼失した一瞬にして焼け野原と化したわが家の跡にぼう然とたたずむ農夫の姿があちこちにみられ道ばたには自失してたちすくむ老人の姿まで目につく。製炭で生計をささえている貧しい民家の多い県北沿岸地方だけに、路頭にまよう被災者も相次いでいる。

被災者のひとり袰野部落の穂高七郎さん(五一)は「製炭一本で生活してきたが、住宅も焼失したうえに、唯一の財産である三〇㌶の山林まで失い、炭を焼くこともできない。だしたのはフトンだけで、これからどうして妻と生活して行けるだろうか」と顔をおおってしまった。

中里部落の竹花敏さん(三四)も不運の連続に気力を失った形。竹花さんは一昨年まで炭焼きをしていたが、無理がたたって肝臓をわずらい借金で長い間入院、昨年春やっと全快したが、まず借金を返そうと岩泉小川の山奥にパルプ材搬出夫として出かせぎ、一ヵ月に一度しか家に帰っていなかった。たまたまこんどの火事にあい、かけつけてみると母スエさん(六〇)妻あやさん(三〇)と子ども三人が着のみ着のままで逃げだしただけで住宅も家財も丸焼けになっていた。「もう少しで借金も払い終わり、幾分でも生活が楽になるだろうと喜んでいただけに、重なる不運に失望も大きく、家族が無事避難できたのは不幸中の幸いだったとしてもこれからの生活は問題です」と、うなだれていた。

鈴木歯科　盛岡駅前木伏通　電②二六三八

新潟県から見舞い金

【新潟発】新潟県は三十日午後、青森、岩手両県知事にあて見舞い状とともに各十万円をおくった。

一人死に三人重傷

湯田　遠出の小型車が転落

三十日午後一時五分ごろ、和賀郡湯田村当落の湯田ダム工事用道路で、湯本温泉に向かう釜石市中島アパート釜鉄社員及川栄亀さん([illegible])運転の小型乗用車が、上り坂でカーブを切りそこね約五〇㍍下の鹿島組資材置場に転落、及川さんは全身打撲二ヵ月、同乗の釜石市只越船舶代理店銀與寺紀吉さん([illegible])は全身打撲、胸部骨折全治二ヵ月、同大只越バー「センダイクラブ」女給木村さち子さん(二七)は全身打撲、胸部骨折三ヵ月、同女給佐藤千枝子さん(二七)は全身打撲、頭部き裂で、四人とも北上署パトカーで北上市花園町黒沢尻病院に収容されたが、佐藤さんは同四時ごろ死亡した。車は大破して損害六十五万円。

なお及川さんは酒気をおびていたといわれ、同署では道交法違反の疑いで捜査している。

警察の裏かく放火魔

盛岡で相つぎ九件

自警に立つ県都民

盛岡市内で放火事件が相いつぎ市民をおののかせている。放火騒ぎは五月二十二日一件、二十七日連続四件、三十日連続四件と続いている。さいわい発見が早く大事にいたらなかったが、再犯が予想されるところから、放火地域住民の間からは、早急に犯人を検挙しろとの声が高まっている。

三十日未明の放火は同市内丸と新築地、日影門の三ヵ所で、ゴミ箱や新築工事中の民家が燃えた。続いて午前三時四十分ごろ菜園老松町地内の路地裏にあった同市上田東組員相沢政美さん所有の屋台が全焼したが、盛岡署の調べで、屋台は一週間前から使っていないことがわかり、放火と断定された。盛岡署は二十二、二十七両日の連続放火を重視し三十日未明には木村部長刑事を班長に特捜班を編成して張り込み中だったが、内丸の場合など巡警コースを歩いた直後に放火されている。

犯人は現在のところ、若い男らしいというだけで、捜査は難航しており、同市日影門外小路の商店会日の丸振興会（会員百五十人、会長宿山惣七氏）は町内のPTAを主体とした住民五十人と、二十七日から夜警班を組織して深夜四時間のパトロールをしている。

またも"人災"が拍車

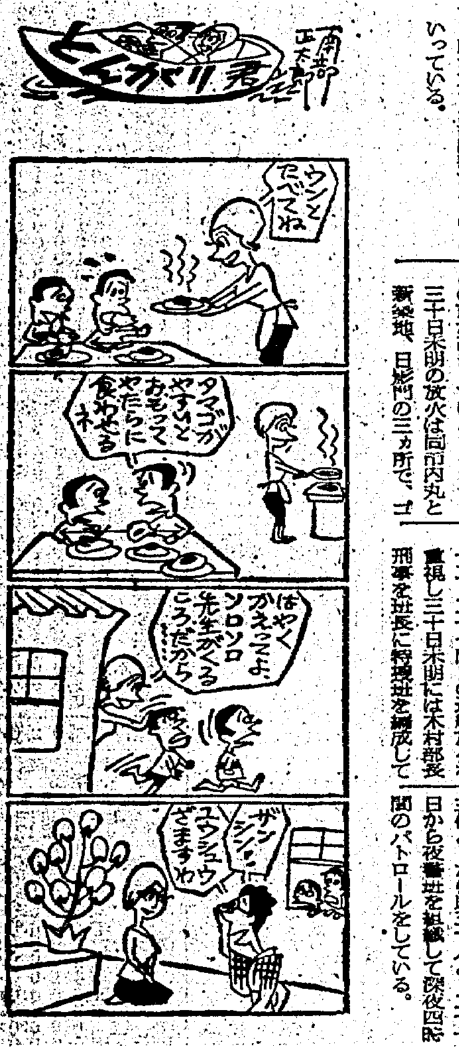
主犯フェーン現象だが

大火を招いた原因

二十九日夜、岩手、青森に起きた大火の"主犯"はフェーン現象に伴う強風だという。しかし、気象庁や被災地方の関係者の話を総合すると、火の用心の怠慢、狭い道路、燃えやすい建物の構造、配置など"人災"的要素も原因になっているという。フェーン現象というのは、風が山を越えてふもとへ"吹きおりる"さいに、湿度が下がり気温が上がる現象のこと。こんどの場合も、日本海を通って北海道付近に達した低気圧へ向かって南寄りの風が吹き込んだ。被災二県は、その風の通り道にあたる北上山脈をはい上がった強風は海岸の八戸や山間部の低地へ吹きおりるとき、フェーン現象を起こしたわけだ。仙台管区気象台の話では、これらの"フェーン地域"はいずれも一五－二〇㍍前後の風が吹き荒れ、気温も平年より二、三度高かったという。出火地区の地形も延焼にひと役買っている。八戸市の場合は、前は海、後ろは山地だからただでさえ海から陸へ、あるいは逆方向の風が起きやすい。これに俗にいう"火事場の風"が加わってさらに"大風"になったらしい。田老地区では細い谷間が"天然の通風路"になった谷間を抜けて吹きつける風は、平地の風より集中力をもつ"火吹き竹"だった。

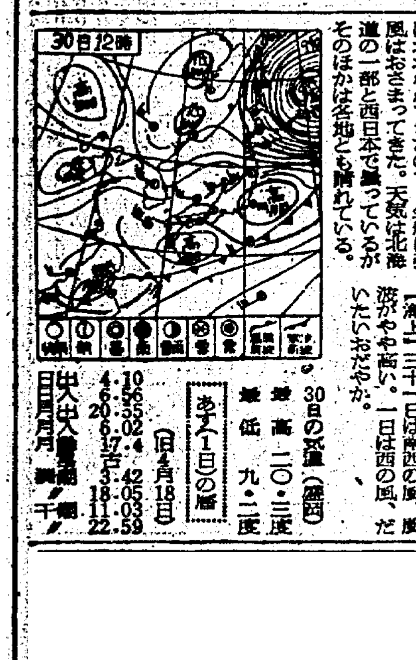
"人災的要素"について、関係者は"住民のゆだん"を指摘している。たとえば、八戸市の被害者はほとんどが寝こみを襲われた形だった。フェーン現象の"本場"といわれる裏日本では毎年、春から初夏に見舞われる"高温、乾燥風"には寝てからも注意を怠らない人が多いという。フェーン現象は珍しいという東北地方の太平洋側だけに、まさか大火はあるまいとゆだんしたフシが感じられる。

田老などの山間被災地は、いずれも水の便がきわめて悪く、被災建物はほとんどが火に弱い構造、材質だったという。気象庁は「みんなが"山と風のあるところ必ずフェーンあり"の気構えでいてもらいたい。都市の防火構造には、もちろん科学的知識も必要だが、住民の自覚と強い政治力が先決問題だろう」といっている。



とんがり君
南部正太郎
ウンとたべてね
タマゴがやすいとおもってやたらに食わせるネ
はやくかえってよソロソロ先生がくるころだから
ザンシン
ユウシュウざますわ

天気マップ予報



【概況・三十日午後三時】オホーツク海に発達した低気圧があって南にのびる前線は本州南方海上に停滞している。本邦は広く高気圧におおわれてきたので、全般に強風はおさまってきた。天気は北海道の一部と西日本で曇っているがそのほかは各地とも晴れている。

【内陸】三十一日は、西よりの風だいたい晴れ。一日は西のち南の風、晴れのち曇り。

【沿岸】三十一日は南西の風、晴れときどき曇り。一日は西の風、晴れたり曇ったり。

【海上】三十一日は南西の風、風波がやや高い。一日は西の風、だいたいおだやか。

30日の気温（盛岡）

最高　二〇・三度

最低　九・二度

あす（1日）の暦　（旧4月18日）

日出　4.10

日入　6.56

月出　20.55

月入　6.02

月齢　17.4

満潮　宮古　3.42

〃　18.05

干潮　11.03

〃　22.59

松村専務ら田老へ

【東京支社発】ラサ工業株式会社は、三十日午前十時から開かれた第八十一期定期株主総会に先立ち午前九時からラサ工業本社で奥村会長、吉見社長、松村専務、笠井、石丸、工藤各常務らが出席して緊急役員会を開き、こんどの対策を協議した。取り急ぎ松村専務、伊藤鉱山精練部長、西厚生課長を現地に派遣することを決めた。一行は三十日午後一時十五分、上野発「はつかり」で現地に向かった。

必需品の値上がり抑制

こんどの火災で生活必需品の法外な値上がりが予想されるため、災害救助対策本部内の警察部に厳重に取り締まるよう望んでいる。とくに心配されるのはナベ、カマ、トタンをはじめ衣類、食料品などで同本部はこうした事態をふせぐため、援助物資の補給に全力をあげている。

後藤氏の解雇を要求

除名した県南バス労組

岩手県南バス労組（山口篤蔵委員長、組合員八十人）は、第二組合の結成を策動したとして、二十九日の臨時大会で除名処分にした後藤孝雄書記長(三〇)の問題について三十日後藤氏に除名処分を通告する一方、会社側に対して労働協約にしたがって後藤氏の即時解雇を要求した。これに対し、後藤氏は「行きすぎの点が多い執行部に対する批判グループが、自分たちの意見をこんどのように組合内に反映していくかと相談しただけで第二組合の結成をはかった覚えはない。除名処分はなっとくできない」と回答、また会社に対しても「除名処分は不当であり、解雇はいっさい認めない」との回答を提出した。

このため組合は三十日午後一時から会社側と団交、後藤氏の即時解雇を重ねて要求したが会社側は、後藤氏から不当処分であるとの意見が出ているので二、三日の調査期間を与えてほしいと答え組合もこれを了承した。

◇薬剤師国家試験合格者　工藤敏彦（盛岡市）鎌田征昭（釜石市）川村圭子（同）菅野光子（江刺市）昆玲子（岩手県）沢藤房枝（北上市）平出美保子（盛岡市）似内睦子（岩手県）中居健介（岩手県）高橋久美子（花巻市）船場定信（岩手県）高橋孝四（花巻市）多田宏（盛岡市）

全国自治宝くじ当選番号

（30日　富山市公会堂）

▽1等（200万円）　2組　146057

▽1等の組違い賞（1万円）　1等の組違い同番号

▽2等（30万円）　2組　171815

▽3等（20万円）　3組　197755

▽4等（10万円）　1組　187225

▽2、3、4等の組違い賞（1,000円）　2、3、4等の組違い同番号

▽5等（500円）　下三ケタ　079　937　388

▽6等（300円）　下三けた　399　810　717

▽7等（200円）　下三けた　117　787　797

▽8等（100円）　下二けた　48　38　19

▽9等（50円）　下一けた　4　6　2　1　8

沿岸火災義援金品

30日

▽五万円　盛岡市村上食料品店

▽一万円　岩手県財政課岩銀[illegible]

▽一万円　盛岡市川徳デパート従業員一同

▽衣類　盛岡市仙北町佐々木。

紙風船

◇…胆沢郡前沢町白山公民館は明春就学する地域内の幼児を対象とした「幼児学級」を毎週火、金曜日、同公民館で開設している。

◇…白山は純農村で毎年春、秋二回の農繁期保育所以外に幼児の収容施設がないため、幼児は団体生活になれず、小学校に入学しても、しばらくは人みしりしたり、自分だけの考えを押し通し学業が町の学童に比べて少なからずおくれるなどから、父兄からも幼児学級の開設が要望されていた。

◇…「幼児学級」は午前八時半から午後三時まで、保母さんふたりをたのむが、経費はおやつ代と保母手当をふくめて、ひとり一日三十円。自由な遊びのなかから持ち物の扱い方、唱歌、体操、紙芝居などによって団体生活になじませ、公民館の新しい試みとして父兄から喜ばれている。

この紙面の著作権は岩手日報社が保持しています。無断転載、複製及び配布は禁止します。